

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2022-12902
(P2022-12902A)

(43)公開日 令和4年1月17日(2022.1.17)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
H 0 4 N 1/00 (2006.01)	H 0 4 N 1/00 1 2 7 Z	2 C 0 6 1
B 4 1 J 29/38 (2006.01)	B 4 1 J 29/38 2 0 3	5 C 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全11頁)

(21)出願番号	特願2020-115063(P2020-115063)	(71)出願人	000001007 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(22)出願日	令和2年7月2日(2020.7.2)	(74)代理人	100126240 弁理士 阿部 琢磨
		(74)代理人	100124442 弁理士 黒岩 創吾
		(72)発明者	望月 宏史 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キ ヤノン株式会社内
		Fターム (参考)	2C061 AP07 AR01 AR03 AS02 HJ07 HK11 HN08 HN15 5C062 AA05 AA13 AA29 AB17 AB23 AB38 AB40 AC02 AC05 AC22 AC34

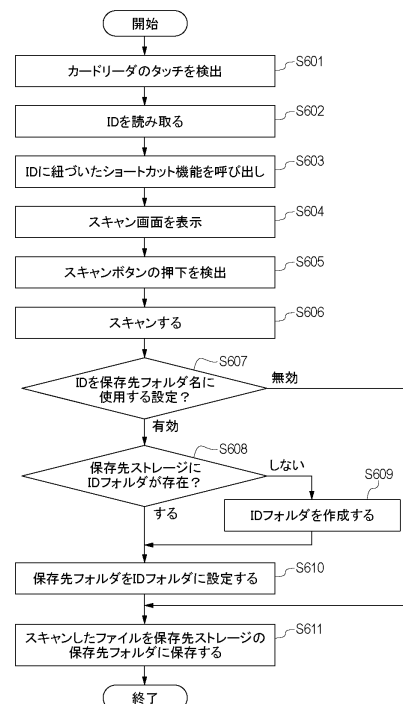
(54)【発明の名称】 画像処理装置、制御方法、およびプログラム

(57)【要約】

【課題】 スキャンにより得られるファイルをストレージに格納した後、カード識別情報を用いてそのファイルにアクセスすることができない。

【解決手段】 原稿を読み取るスキャナを備える画像処理装置であって、カード識別情報と対応付けて登録される機能呼び出しイベントを受信する受信手段と、前記イベントの受信に応じて、前記スキャナによるスキャンと、前記スキャンにより得られるファイルのストレージへの格納と、を実行する実行手段と、を有し、前記ファイルの格納先を示す情報には、前記呼び出される機能と対応付けて登録されている前記カード識別情報が利用されることを特徴とする。

【選択図】 図6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

原稿を読み取るスキャナを備える画像処理装置であって、
カード識別情報と対応付けて登録される機能と呼び出すイベントを受信する受信手段と、
前記イベントの受信に応じて、前記スキャナによるスキャンと、前記スキャンにより得られるファイルのストレージへの格納と、を実行する実行手段と、を有し、
前記ファイルの格納先を示す情報には、前記呼び出される機能と対応付けて登録されている前記カード識別情報が利用されることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】

前記受信手段が受信するイベントは、前記画像処理装置が備えるカード読み取り部でカード識別情報が読み取られることによるイベントであることを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

10

【請求項 3】

前記画像処理装置が備える操作部で、カード識別情報と対応付けて登録される機能と呼び出すためのオブジェクトを表示する表示手段を更に有し、
前記受信手段が受信するイベントは、前記操作部で、前記オブジェクトの選択を受け付けたことによるイベントであることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の画像処理装置。

【請求項 4】

前記実行手段は、前記呼び出される機能と対応付けて登録されている前記カード識別情報に対応する格納先であるフォルダに、前記ファイルを格納することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

20

【請求項 5】

前記カード識別情報に対応する格納先であるフォルダが前記ストレージ内に存在しない場合に、前記カード識別情報に対応する格納先であるフォルダを生成するよう前記ストレージに対して指示する指示手段をさらに有することを特徴とする請求項 4 に記載の画像処理装置。

【請求項 6】

原稿を読み取るスキャナを備える画像処理装置の制御方法であって、
カード識別情報と対応付けて登録される機能と呼び出すイベントを受信する受信工程と、
前記イベントの受信に応じて、前記スキャナによるスキャンと、前記スキャンにより得られるファイルのストレージへの格納と、を実行する実行工程と、を有し、
前記ファイルの格納先を示す情報には、前記呼び出される機能と対応付けて登録されている前記カード識別情報が利用されることを特徴とする制御方法。

30

【請求項 7】

請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の手段としてコンピューターを機能させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、原稿を読み取るスキャナを備える画像処理装置、制御方法、およびプログラムに関する。

40

【背景技術】

【0002】

従来から、印刷装置において、近接無線通信可能なカードのカード ID を読み込ませることにより、印刷装置の持つ機能のうち、読み込んだカード ID に紐づけて登録されている機能を実行するという、いわゆるショートカットに関する提案が行われている。特許文献 1 では、カードが複合機に近づけられると、カード ID と関連づけて登録されている機能が呼び出され、呼び出された機能が実行されることが記載されている。

【0003】

また、近年では印刷装置で読み取られた文書などを管理するための文書管理ソフトウェア

50

が活用されている。たとえば大量の文書ファイルを管理する文書ファイリングシステムや、領収書を管理する会計システム、処方箋を管理する処方箋管理システムなどがある。こうしたシステムは、文書を必要なユーザごとに管理するためにログイン機能を持ち、ユーザごとに必要なファイルが適切に管理される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2017-118322号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上述した特許文献1では、近接無線通信で取得されたカードIDと、そのカードIDによって呼び出されて実行される複合機の機能とが紐づけられている。しかしながら、特許文献1では、複合機の一機能であるスキャンにより得られるファイルをカード識別情報と関連づけて管理するための文書管理の仕組みについては考慮されていない。つまり、スキャンにより得られるファイルをストレージに格納した後、カード識別情報を用いてそのファイルにアクセスすることができない。

【0006】

そこで、本発明は、カード識別情報と対応付けて登録される機能呼び出すイベントの受信に応じて、画像処理装置で実行されたスキャンにより得られるファイルを、カード識別情報を用いてストレージで管理するための仕組みを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために、本発明は、原稿を読み取るスキャナを備える画像処理装置であって、カード識別情報と対応付けて登録される機能呼び出すイベントを受信する受信手段と、前記イベントの受信に応じて、前記スキャナによるスキャンと、前記スキャンにより得られるファイルのストレージへの格納と、を実行する実行手段と、を有し、前記ファイルの格納先を示す情報には、前記呼び出される機能と対応付けて登録されている前記カード識別情報が利用されることを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、カード識別情報と対応付けて登録される機能呼び出すイベントの受信に応じて、画像処理装置で実行されたスキャンにより得られるファイルを、カード識別情報を用いてストレージで管理することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】実施例のシステム全体構成を示す図である。

【図2】実施例のMFP110のハードウェア構成を示す図である。

【図3】実施例の文書管理サーバ120、PC130、ストレージ140のハードウェア構成を示す図である。

【図4】実施例のソフトウェア構成を示す図である。

【図5】実施例の全体のシーケンスを示す図である。

【図6】実施例のMFP110における、カードを読み取りファイルをストレージ140に保存する処理を示す本実施例のフローチャートを示す図である。

【図7】文書管理ソフトウェア400における、ストレージ140に保存されたファイルを取り込みログインユーザに表示するフローチャートを示す図である。

【図8】実施例のMFP110のスキャン設定画面を示す図である。

【図9】実施例の文書管理ソフトウェア400のデータ構造を示す図である。

【図10】実施例のMFP110がカードIDに紐づいたショートカット機能の登録を行うフローチャートを示す図である。

10

20

30

40

50

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、本発明を実施するための最良の形態について図面を用いて説明する。

【0011】

図1は本発明の実施形態に係わる画像形成システムの全体構成を説明するものである。MFP(110)およびPC(130)およびストレージ(140)はネットワークに繋がっている。

【0012】

MFP(110)は、スキャンしたファイルを、ネットワークを介してストレージ(140)に保存する画像処理装置である。また、MFP110はカードのIDとMFP110の任意の機能とを紐づけ、カードを読み取り時にショートカットとして任意の機能呼び出すことができる。

【0013】

文書管理サーバ(120)は、PC(130)からログインし、ストレージ140に保存されたファイルを取り込み、そのファイルを管理する文書管理ソフトウェアが動作するサーバである。文書管理サーバ120は、ユーザ情報を持ち、ログインすることでそのユーザに必要な文書ファイルを管理する。文書管理サーバ120は、たとえば大量の文書ファイルを管理する文書ファイリングシステムや、領収書を管理する会計システム、処方箋を管理する処方箋管理システムなど、文書を管理するシステム全般を意味する。

【0014】

PC(130)は、文書管理サーバ120で動作する文書管理ソフトウェアにログインし、操作する。ストレージ(140)は、ファイルを保存する記憶装置である。ストレージ140は、MFP110からスキャンされたファイルを保存し、文書管理サーバ120およびPC130からアクセスされる。なお、文書管理サーバ120とストレージ140は別の装置として図示しているが、1台のサーバコンピュータでそれらの機能が実現されてもよい。

【0015】

図2は、本発明の実施形態に係わる画像形成システムのMFP110のハードウェア構成を示す図である。MFP110は、制御部210、操作部220、プリンタ部221、スキャナ部222、モデム223で構成される。

【0016】

制御部210は、以下の各部211～219で構成され、MFP110全体の動作を制御する。CPU211は、ROM212に記憶された制御プログラムを読み出して、読取／印刷／通信などMFP110が有する各種機能を実行・制御する。RAM213は、CPU211の主メモリ、ワークエリア等の一時記憶領域として用いられる。なお、本実施例では1つのCPU211が1つのメモリ(RAM213またはHDD214)を用いて後述のフローチャートに示す各処理を実行するものとするが、これに限定されない。例えば、複数のCPUや複数のRAMまたはHDDを協働させて各処理を実行してもよい。HDD214は、画像データや各種プログラムを記憶する大容量記憶部である。

【0017】

操作部I/F215は、操作部220と制御部210とを接続するインタフェースである。操作部220には、タッチパネルやキーボードなどが備えられており、ユーザによる操作／入力／指示を受け付ける。プリンタI/F216は、プリンタ部221と制御部210とを接続するインタフェースである。印刷用の画像データはプリンタI/F216を介して制御部210からプリンタ部221へ転送され、記録媒体上に印刷される。スキャナI/F217は、スキャナ部222と制御部210とを接続するインタフェースである。

【0018】

スキャナ部222は、不図示の原稿台やADF(Auto Document Feeder)にセットされた原稿を読み取って画像データを生成し、スキャナI/F217を介して制御部210に入力する。MFP110は、スキャナ部222で生成された画像デー

10

20

30

40

50

タをプリンタ部 221 から印刷出力（コピー）する他、ファイル送信またはメール送信することができる。モデム I / F 218 は、モデム 223 と制御部 210 とを接続するインタフェースである。モデム 223 は、PSTN 上のファクシミリ装置との間で画像データをファクシミリ通信する。カードリーダー I / F 224 は、カードリーダー 225 と制御部 210 とを接続するインタフェースである。カードリーダー 225 は、NFC などの近接通信可能なカードと近接無線通信を行いカード、携帯端末のデータを読み取ることができる。ネットワーク I / F 219 は、制御部 210（MFP 110）を LAN に接続するインタフェースである。MFP 110 は、ネットワーク I / F 219 を用いてインターネット上の各サービスに画像データや情報を送信したり、各種情報を受信したりする。

【0019】

図 3 は、文書管理サーバ 120、PC 130、ストレージ 140 のハードウェア構成図である。文書管理サーバ 120、PC 130、ストレージ 140 はそれぞれ、CPU 311、ROM 312、RAM 313、HDD 314 及びネットワーク I / F 315 で構成される。CPU 311 は、ROM 312 に記憶された制御プログラムを読み出して各種処理を実行することで、全体の動作を制御する。RAM 313 は、CPU 311 の主メモリ、ワークエリア等の一時記憶領域として用いられる。HDD 314 は、画像データや各種プログラムを記憶する大容量記憶部である。ネットワーク I / F 315 は、ネットワークに接続するインタフェースである。

【0020】

図 4 は、本発明の実施形態に係わる MFP 110 および文書管理サーバ 120 のソフトウェア構成を示す図である。

【0021】

MFP 110 のソフトウェア構成について説明する。表示制御部 410 は、MFP 110 の UI を制御する制御部である。スキャン設定画面の表示の UI 制御やボタンの押下の検出などの制御を行う。カード ID 読み込み部 411 は、MFP 110 のカードリーダーにタッチされたカード識別情報を読み込む処理を行う。ショートカット機能呼び出し部 412 は、カード ID 読み込み部 411 によって読み込まれたカード ID に紐づく MFP 110 のショートカット機能呼び出す。カード ID とショートカット機能の対応付けについては、図 10 に示すフローチャートで説明する。スキャン指示部 413 は、UI 画面を介して入力されたユーザ指示に応じたスキャン設定と共にスキャン実行部 414 にスキャン処理を要求する。スキャン実行部 414 は、スキャン指示部 413 からのスキャン設定を含んだスキャン要求を受け取る。スキャン実行部 414 は、スキャン要求に従い、スキャナ I / F 217 を介してスキャナ部 222 で、原稿台ガラスに置かれた原稿を読み取ることでスキャン画像データを生成する。生成したスキャン画像データは、画像データ保存部 415 に送られる。画像データ保存部 415 は、設定された保存先パスに基づき、生成したスキャン画像データをストレージ 140 に保存する。

【0022】

次に、文書管理サーバ 120 のソフトウェア構成について説明する。文書管理ソフトウェア 400 は、表示制御部 420、データ管理部 421、およびストレージ瑕疵部 422 を備える。表示制御部 420 は、文書管理サーバ 120 の UI を制御する制御部である。ログイン画面や保存された画像データの表示などの UI 制御、やボタンの押下の検出などを行う。データ管理部 421 は、文書管理ソフトウェア 400 のデータを管理する。保持するデータについては、図 7 で説明する。ストレージ監視部 422 は、ストレージ 140 にファイルが保存されたことを監視する。

【0023】

図 5 を用いて、本実施例のシステム全体の動作の流れを説明する。図 5 は、本実施例の全体の流れを示すシーケンス図である。

【0024】

まず、MFP 110 のカードリーダーにカードがかざされたことにより、MFP 110 がカード ID を検出する（S501）。MFP 110 は、あらかじめカード ID に紐づけられ

10

20

30

40

50

た機能ショートカットを呼び出す（S 5 0 2）。この機能ショートカットは、たとえば M F P 1 1 0 の持つ、スキャンしてファイルを保存する機能である。なお、カード I D 読み込みにより呼び出される機能をショートカットとして登録する処理については、図 1 0 を用いて後述する。スキャン後、M F P 1 1 0 は、スキャンボタンの押下により原稿のスキャンを行う（S 5 0 3）。M F P 1 1 0 は、S 5 0 3 でスキャンしたファイルをストレージ 1 4 0 に保存する。このとき、S 5 0 1 で検出したカードの I D を保存フォルダ名として使用する（S 5 0 4）。

【 0 0 2 5 】

次に、文書管理ソフトウェア 4 0 0 がストレージ 1 4 0 にファイルが保存されたことを検出する（S 5 0 5）。文書管理ソフトウェア 4 0 0 は、検出したファイルのフォルダ名を取得する（S 5 0 6）。文書管理ソフトウェア 4 0 0 は、S 5 0 6 で取得したフォルダ名を監視フォルダとする文書管理ソフトウェア 4 0 0 の持つユーザ I D を取得する（S 5 0 7）。文書管理ソフトウェア 4 0 0 は、S 5 0 5 で検出したファイルパスと、S 5 0 7 で取得したユーザ I D を紐づけて文書管理サーバ 1 2 0 のデータベースに保存する（S 5 0 8）。

10

【 0 0 2 6 】

次に、P C 1 3 0 が文書管理ソフトウェア 4 0 0 にログインを行う（S 5 0 9）。文書管理ソフトウェア 4 0 0 は、S 5 0 7 でログインしたユーザのユーザ I D に紐づく S 5 0 8 で保存したファイルを表示する（S 5 1 0）。

【 0 0 2 7 】

この後、文書管理ソフトウェア 4 0 0 は、表示されたファイルに対して処理を行う。たとえば文書ファイリングソフトであればファイル名やタグ付け操作を行い、会計ソフトウェアであれば清算処理を行い、本実施例を終了する。

20

【 0 0 2 8 】

図 6 は、M F P 1 1 0 における、カード I D を読み取りファイルをストレージ 1 4 0 に保存する処理を示す本実施例のフローチャートである。本フローチャートの各ステップは、M F P 1 1 0 の C P U 2 1 1 が、R O M 2 1 2、R A M 2 1 3 や H D D 2 1 4 に記録されたプログラムを読み出して実行することにより実現される。

【 0 0 2 9 】

M F P 1 1 0 は、カードリーダ 2 2 5 にカードがタッチされたことを検出する（S 6 0 1）。なお、検出する対象はカードリーダ 2 2 5 が I D を読み取れる形式であれば、カードではなく、たとえばスマートフォンの近接無線通信などでも構わない。M F P 1 1 0 は、タッチされたカード I D を近接無線通信により読み取る（S 6 0 2）。M F P 1 1 0 は、読み取った I D に紐づけられたショートカット機能呼び出す（S 6 0 3）。本実施例では、原稿をスキャンして、スキャンして得られたファイルをストレージに保存する機能をショートカットとして呼び出す。また、ショートカット機能呼び出すイベントとしては、他にも、M F P 1 1 0 の操作部 2 2 0 に表示されるショートカットボタンであるオブジェクトがユーザにより選択されてもよい。なお、本実施例は、M F P 1 1 0 のユーザ認証機能とショートカット機能が排他である場合に、より有効である。具体的には、ショートカット機能を有効にした場合はユーザ認証機能を無効になるため、ショートカット機能によりカード I D に紐づく機能呼び出せない。

30

40

【 0 0 3 0 】

M F P 1 1 0 は、操作部 2 2 0 にスキャン画面 8 0 0 を表示する。スキャン設定画面 8 0 0 は、図 8 である。このスキャン画面の説明は図 8 の説明に記載する。M F P 1 1 0 は、スキャン開始ボタン 8 0 1 が押下されたことを検出する（S 6 0 5）。M F P 1 1 0 は、スキャナ 2 2 2 を用いて原稿をスキャンする（S 6 0 6）。M F P 1 1 0 は、S 6 0 4 で表示したスキャン設定画面 8 0 0 の保存先にカード I D を使用する設定 8 0 6 が有効であるかを確認する（S 6 0 7）。無効である場合は、S 6 1 0 に進む。有効である場合には、M F P 1 1 0 は、ストレージ 1 4 0 の保存先パスに、カード I D のフォルダ名を持つフォルダが存在するかを確認する（S 6 0 8）。存在する場合には、S 6 0 9 に進む。存在

50

しない場合には、MFP 110は、カードIDのフォルダ名を持つフォルダをストレージ140に作成するようストレージ140に対して指示する(S609)。MFP 110は、S608で確認したフォルダを保存先フォルダとして設定する(S610)。つまり、S610で、MFP 110は、カードIDを用いて、ストレージ内のファイル格納先を設定する。MFP 110は、S606でスキャンしたファイルをS610で設定したフォルダに保存し(S611)、本フローを終了する。

【0031】

図7は、文書管理ソフトウェア400における、ストレージ140に保存されたファイルを取り込みログインユーザに表示する本実施例のフローチャートである。本フローチャートの各ステップは、文書管理サーバ120のCPU 211が、ROM 212、RAM 213やHDD 214に記録されたプログラムを読み出して実行することにより実現される。

10

【0032】

文書管理ソフトウェア400は、ストレージ140にファイルが保存されたことを検出する(S701)。文書管理ソフトウェア400は、検出したファイルのフォルダ名から、対応するユーザIDを特定する(S702)。これは、文書管理ソフトウェア400のユーザIDと、監視対象のフォルダをあらかじめ紐づける設定をすることで特定を行う。そのための文書管理ソフトウェア400の持つデータ管理部が管理するデータの構造は図9を用いて後述する。データ管理部が管理するデータは、ユーザID 901、パスワード 902、監視フォルダ 903および取得済みファイル 904を持つ。検出したフォルダ名と一致する監視フォルダ 903を検索し、それと紐づくユーザ 901を特定する。文書管理ソフトウェア400は、S701で検出したファイルとユーザIDを紐づけ、取得済みファイル 904に保存する(S703)。取得済みファイル 904は複数ファイルを扱うため、配列データとして保存する。

20

【0033】

その後、文書管理ソフトウェア400は、PC 110からのログインを検出する(S704)。ログインには、図9のユーザID 901およびパスワード 902を用いる。文書管理ソフトウェア400は、ログインしたユーザIDに紐づけられた取得済みファイルを取得し、表示する(S705)。

【0034】

図8は、MFP 110で表示されるスキャン設定画面800である。スキャン開始ボタン801は、押下するとMFP 110はスキャナ222を使って原稿をスキャンする。スキャンカラー設定802は、読み取りカラーの設定である。スキャン解像度設定803は、スキャン時の解像度の設定である。図8では記載していないが、スキャンに関する設定はこれ以外に両面・片面設定や、写真・文書設定、OCR設定などのスキャン設定があってもよい。

30

【0035】

スキャン保存先設定804は、スキャンした設定の保存先である。たとえばemailの宛先、FAXの送信先、SMBサーバとフォルダパス、FTPサーバとフォルダパスなどを設定する。本実施例では、SMBサーバとフォルダパスを設定する。保存先パス805は、保存先の情報を表示する。保存先にカードIDを使用する設定806は、カード読み取りによりスキャン設定画面が呼び出された場合に、保存先のフォルダにカードIDを指定するかどうかを設定する。たとえば、図8では保存先パス805は、「¥¥storage¥share¥scan¥0123456789ABCDEF」と表示されている。この文字列中の、0123456789ABCDEFがカードIDにあたる。保存先にカードIDを使用する設定806が無効になる場合には、図8の保存先パス805は、「¥¥storage¥share¥scan」と表示する。

40

【0036】

図9は、文書管理ソフトウェア400の持つデータ管理部421が管理するデータを示す図である。ユーザID 901は、文書管理ソフトウェアにログイン可能なユーザのIDを示す。パスワード 902は、ユーザID 901でログインするときに入力するパスワード

50

である。監視フォルダ 903 は、ストレージ 140 の監視対象フォルダ名を示し、文書管理ソフトウェア 400 のユーザによって設定される。本実施例では、監視フォルダ 903 は MFP 110 のショートカット機能呼び出しのカード ID と同じ値を設定する。取得済みファイル 904 は、ストレージ 140 を監視し、取得してユーザ ID 901 と紐づけて保存されたファイル情報である。

【0037】

以上、本実施例では MFP 110 はユーザ管理では行うことなく、文書管理ソフトウェア 400 のログインユーザに適切なファイルを表示することができる。

【0038】

図 10 は、MFP 110 に近接通信によるカード ID 読み込みにより呼び出される機能をショートカットとして登録するフローを示す図である。MFP 110 は、ショートカットの追加操作がされたことを検出する (S1001)。MFP 110 は、追加するショートカットが既存ショートカットの設定をコピーして利用するか、新規のショートカットかを判断する (S1002)。S1002 において、既存ショートカットのコピーではない場合には、ショートカット機能選択画面を表示する (S1003)。この画面では、たとえばスキャン機能やコピー機能などが表示され選択可能である。その後、S1005 に進む。S1002 で既存ショートカットのコピーであった場合には、MFP 110 は既存ショートカット一覧を表示する (S1004)。これは、MFP 110 にすでに登録済みのショートカット一覧を表示する。MFP 110 は、スキャン機能ショートカットの選択を検出する (S1005)。MFP 110 は、カード ID 紐づけボタンの押下を検出する (S1006)。MFP 110 は、カードのタッチを検出する (S1007)。MFP 110 は、S1007 で検出したカードの ID と、本フローで登録するショートカットを紐づけて保存する (S1008)。

【0039】

以上により、MFP 110 はカード ID に紐づけられる機能をショートカットとして登録できる。以降、カードを MFP 110 のカードリーダーに近づけることにより、カードに紐づけられた機能が呼び出される。

【0040】

本実施例では、印刷装置からストレージに格納されたファイルと、ユーザ情報とを紐づけて管理するため仕組みについて説明した。従来技術では、印刷装置の機能により得られたファイルをストレージに保存することはできるが、そのファイルが文書管理ソフトウェア 400 のどのユーザにとって必要なファイルであるのか特定することができない。MFP 110 で文書管理ソフトウェア 400 と同様にユーザ管理を行うことによって特定を可能にすることもできるが、文書管理ソフトウェア 400 と MFP 110 の両方でユーザ管理を行う必要があり、ユーザ管理が複雑化する問題がある。また、ログインが機能上必須である文書管理ソフトウェア 400 と異なり、MFP 110 はオフィスで共有されログイン機能は使わずに簡単に運用されることがあった。その場合にはやはり文書管理ソフトウェア 120 のどのユーザにとって必要なファイルであるのか特定することができなかった。本実施例によれば、印刷装置からストレージに格納されたファイルと、ユーザ情報とを紐づけて管理することができる。

【0041】

(他の実施例)

本発明は、上述した実施形態を適宜組み合わせることにより構成された装置あるいはシステムやその方法も含まれるものとする。

【0042】

ここで、本発明は、上述した実施形態の機能を実現する 1 つ以上のソフトウェア (プログラム) を実行する主体となる装置あるいはシステムである。また、その装置あるいはシステムで実行される上述した実施形態を実現するための方法も本発明の 1 つである。また、そのプログラムは、ネットワークまたは各種記憶媒体を介してシステムあるいは装置に供給され、そのシステムあるいは装置の 1 つ以上のコンピューター (CPU や MPU 等) に

10

20

30

40

50

よりそのプログラムが読み出され、実行される。つまり、本発明の1つとして、さらにそのプログラム自体、あるいは当該プログラムを格納したコンピュータにより読み取り可能な各種記憶媒体も含むものとする。また、上述した実施形態の機能を実現する回路（例えば、ASIC）によっても、本発明は実現可能である。

【符号の説明】

【0043】

110 MFP

211 CPU

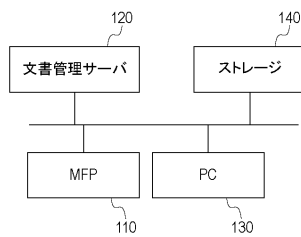
412 ショートカット呼び出し部

414 スキャン実行部

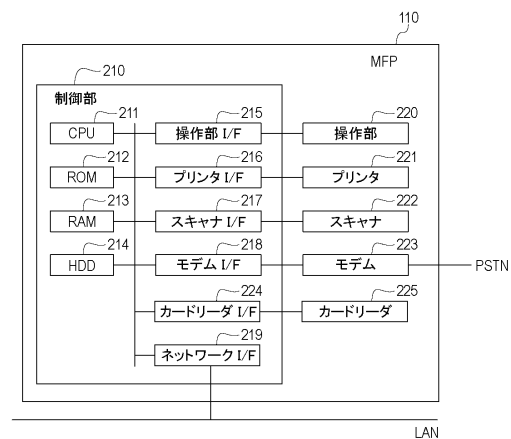
415 画像データ保存部

【図面】

【図1】



【図2】



10

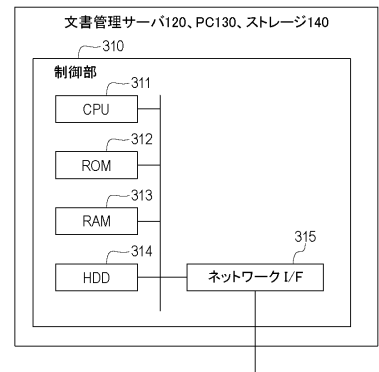
20

30

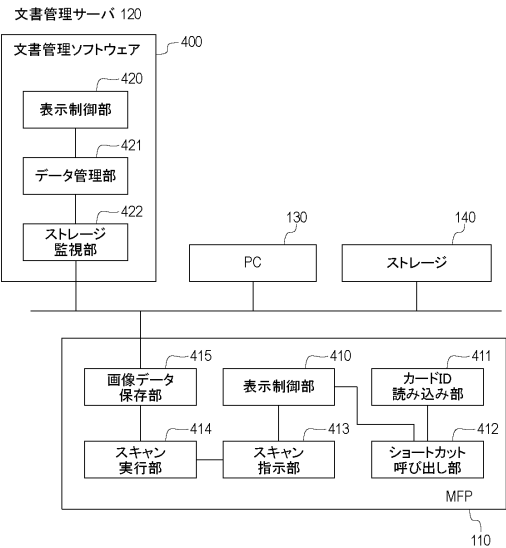
40

50

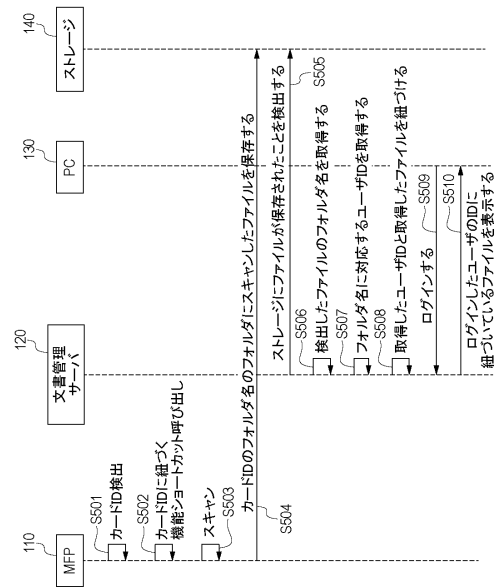
【図 3】



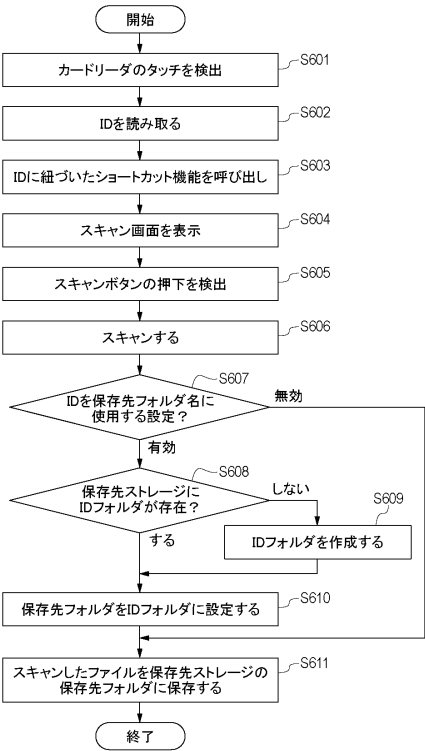
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

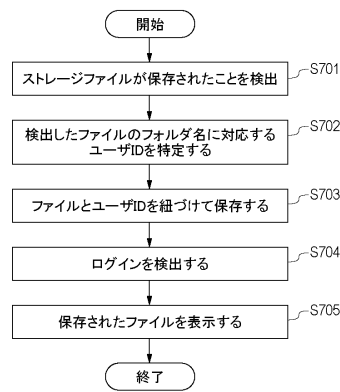
20

30

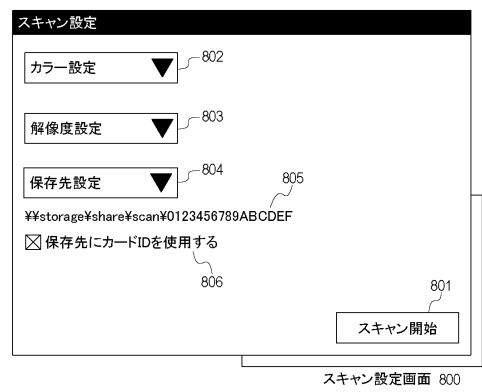
40

50

【 図 7 】



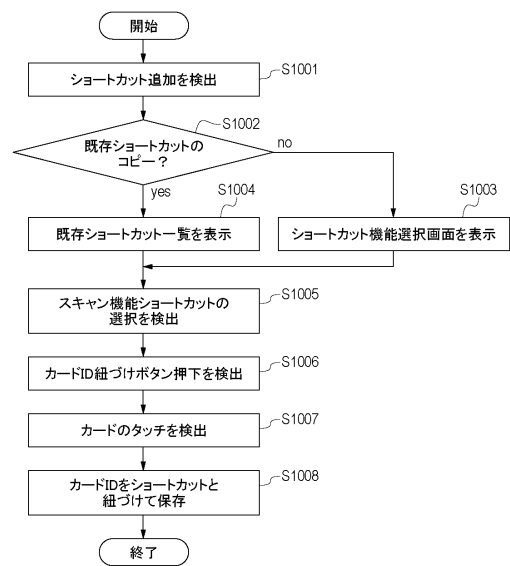
【 図 8 】



【 図 9 】

取得済みファイル			
ユーザID	パスワード	監視フォルダ名	取得済みファイル
User1	aaabbb	0123456789ABCDEF	[SCAN_20180511.jpg, SCAN_20180512.jpg]
User2	bbcccc	123456789ABCDEF0	
User3	ccddddd	23456789ABCDEF01	

【 図 1 0 】



10

20

30

40

50